

ご加入者の声をご紹介します！

(農業共済新聞・広報紙「NOSAI広島」等から転載)



三次市作木町
株式会社 高丸農園
総務部長 中村 真佐美さん

つなぎ資金で経営続行

ナシを約2.8畝栽培しています。令和2年に霜の被害と獣害で、収入が3分の1ほどになってしまいました。ここまで大きな被害は初めてで、収入保険に入っていなければどうなっていたか。

つなぎ資金の対応が早く、次の年の準備ができ、経営を続けられました。自然が相手なので、明日何が起こるか分かりません。農業を営む上では、保険もその一部であり大事なものです。また、収入保険の基準の金額は、それを超えようというモチベーションにもなっています。

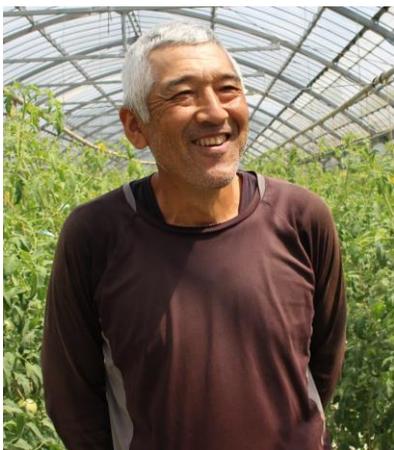
一筆方式から収入保険へ

兼業で水稲「あきさかり」を約55畝栽培しています。一筆方式の廃止で、令和3年から収入保険に加入しています。収入保険は、けがや体調不良で作業ができず収入が減少したときにも補償してもらえるとというのが一番の決め手でした。青色申告の数字で保険金などを算出するのも分かりやすく、過去の実績だけでなく、実態を考慮し、基準収入金額を算定してもらえるのもポイントです。

30年以上米作りをしています。災害が少ない地域ではありますが、農業は天候に左右される産業なので、保険はお守りだと思っています。



三原市大和町 是盛 孝昭さん



神石高原町
まる豊トマト生産出荷組合
組合長 橋本 英治さん

安値や天候不順も安心

トマトを栽培しています。令和3年は、出荷当初の安値や夏場の雨量・曇天の影響で売り上げが落ち込み、保険金をもらいました。加入しておけば、自身の病気やけがなどで収入が減ったときでも、確実にお金を回すことができます。

組合の38人のうち、11人が20～40代です。若手は施設費用の返済などもあるので、収入が減ると自分の手取りがなくなるだけでなく、そのお金を工面しなくてははいけません。収入保険には絶対に入っておくべきだと思います。

収入の補償に安心感

水稻244畝、ナシ60畝を栽培しています。水稻は令和2年にウンカの被害、令和3年水害に遭いました。ナシは2年連続の霜害に加え、コロナ禍での観光ナシ園の集客不足による減収で保険金を受け取りました。

収入保険は税務申告の書類を提出すれば保険金が計算され、支払いが早いので助かります。実際に保険金をもらったときは、「こんなにもらえた」という印象で、妻とも「収入保険に救われた。加入していることでストレスが軽減される」と話しています。



安芸高田市 森川 和正さん



呉市安浦町
有限会社 はなぞの野呂高原
代表取締役 今井 満さん

価格低下への備え

バラの苗や切り花、ランをハウス50畝で栽培しています。

加入の決め手は、西日本豪雨と新型コロナ。豪雨災害では土砂の流入、停電で花が十分に育たず、収入が大幅に減少しました。コロナでも婚礼やイベントが延期や中止になり、価格が大幅に低下しました。

花きは外的要因で価格が大きく左右されます。今後もしんなることが起こるか分かりません。万が一の備えとして収入保険は必要だと思います。経営の実態に合わせて加入できるのもいいですね。

災害の経験から加入

年間を通して野菜50品目を栽培しています。西日本豪雨で被害を受けたことをきっかけに、収入保険に加入しました。

私の畑は山に近く、豪雨で山が崩れ、土砂が流れてきました。その土砂が水路をふさぎ雨水があふれて、畑は水浸しになりました。撤去作業に手が取られて農作業が滞り、収入が減ってしまいました。

万が一に備え収入保険に入っておくことは必要だと思います。災害に備えながら、新鮮で体に優しいものを届けていきたいです。



広島市 柳岡 仁さん

収入保険加入者限定！

初めて購読いただく方は、今なら1年間半額(2,760円)で購読いただけます！

収入保険制度の解説はもちろん、全国各地で多彩な農業経営をされている方々の紹介や全国の収入保険加入者の声もたくさん掲載しています。

毎週水曜日発行 年間購読料5,520円



お申込み
は最寄りの
NOSAIまで